

群 教 セ	G02 - 02
	平25.249集
	小・社会

小学校社会科の歴史学習における 思考力・表現力を高める指導の工夫

—「追究の観点」をふまえた学習活動に
『つなげるシート』の作成を取り入れて—

長期研修員 星 寛子

キーワード 【社会—小 歴史学習 思考力・表現力 追究の観点 つなげるシート】

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説社会科編では、全ての学年の能力に関する目標の中に「考えたことを表現する力」の育成が示された。これは、資料などから必要な情報を選び、比較・関連付け・総合しながら再構成する中で、自分の考えを構築し表現することができる思考力・表現力の育成を目指したものである。

「ぐんまの子どもの基礎・基本習得状況調査」から、群馬の子どもたちは、基礎的・基本的な知識は身に付いているものの、「考えたことを表現する力」に課題が見られることが明らかになった。この結果を基に「はばたく群馬の指導プラン」では、伸ばしたい資質や能力として「資料から情報を読み取り、活用すること」「比較・関連付けて考え、社会的事象の特色や意味を理解すること」が挙げられた。このことから、資料を活用し比較したり関連付けたりして考える活動を充実させることで、思考力・表現力を高めていくことが大切であると考えられる。

小学校社会科の歴史学習では、事象の特色や相互の関連をとらえながら、その役割や意味について考える力を育てることが求められている。しかし、児童の実態としては、時代の特徴的な事象を部分的・断片的に学習することにとどまる場合が多く、事象間をつなげながら役割や意味を考える経験が少ない。事象の役割や意味について考える力を育てるためには、学習内容とその配列を工夫した単元構想により、連続的・関連的に事象をつなげて考える見方や考え方を育てることが大切である。

そこで、単元の学習課題を解決するための見通しがもてる「追究の観点」を設定し、それをふまえた学習活動を構想することが有効であると考えられる。単元の学習課題は、単元相互の学習をつなぐとともに、単元全体の学習をつなぐためのもので「単元をつなぐ学習課題」とする。「単元をつなぐ学習課題」に対する予想から「追究の観点」を設定し、観点に沿って比較・関連付け・総合することにより、連続的・関連的に事象をつなげて考えることができる。その際、単元の考え・まとめる過程で、「追究の観点」に沿って総合し再構成する『つなげるシート』の作成を取り入れる。事象を比較・関連付け・総合しながら、つながりを具体的に再構成することにより、事象の役割や意味をとらえ、単元全体の学習をつないで考えたことを表現することができる。また、学習過程の中で、教科書や資料集から「追究の観点」に沿って資料を収集した『切り取りシート』を活用する。『切り取りシート』の資料を基に、事象を比較・関連付け・総合することで、事象のつながりを考え表現しやすくすることができる。

以上のことから、本研究では、小学校社会科の歴史学習において、「追究の観点」をふまえた学習活動に『つなげるシート』の作成を取り入れることによって、思考力・表現力を高めることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校社会科の歴史学習において、思考力・表現力を高めるために、「追究の観点」をふまえた学習活動に『つなげるシート』の作成を取り入れることの有効性を明らかにする。

III 研究の見通し

1 単元全体の学習をつなぐ見通しをもつこと

つかむ過程において、「単元をつなぐ学習課題」に対する予想から、「追究の観点」を設定するこ

とにより、単元全体の学習をつなぐ見通しをもつことができるであろう。

2 事象間のつながりを明確にして考えたことを表現すること

追究する過程において、『切り取りシート①』を活用し、「追究の観点」に沿って事象を比較・関連付けることにより、事象間のつながりを明確にして考えたことを表現することができるであろう。

3 単元全体の学習をつないで考えたことを表現すること

考え・まとめる過程において、『切り取りシート②』を活用し、「追究の観点」ごとに再構成した『つなげるシート』を作成することにより、単元全体の学習をつないで考えたことを表現する力を高めることができるであろう。

IV 研究内容の概要

本研究は、小学校社会科の歴史学習において、「追究の観点」をふまえた学習活動に『つなげるシート』の作成を取り入れることによって、思考力・表現力を高めることを目指すものである。

具体的には、まず、「単元をつなぐ学習課題」から「追究の観点」を設定する。「単元をつなぐ学習課題」は、単元相互の資料を比較することによって設定するもので、事象のつながりを意識し見通しをもった課題追究ができるものである。「追究の観点」は、「単元をつなぐ学習課題」に対する予想を、「政治」「外交」「産業・文化」の3観点に分類し整理することによって設定するもので、単元全体の学習をつなぐ見通しをもつことができるものである。なお、「単元をつなぐ学習課題」と「追究の観点」は、教師があらかじめ構想するが、児童自らが見いだせるように展開を工夫し設定していく。

次に、「追究の観点」に沿って事象を比較・関連付けながら、観点ごとに追究する。その際、教科書や資料集から「追究の観点」に沿って資料を収集した『切り取りシート①』を活用し、事象を比較・関連付けることによって、事象の特色や相互の関連をとらえ、事象間のつながりを明確にした考えを表現することができる。

最後に、単元の考え・まとめる過程で『切り取りシート①』の資料を精選した『切り取りシート②』を活用し、『つなげるシート』を作成する。『つなげるシート』には、『切り取りシート②』から資料を収集・選択し、比較・関連付けながら追究した結果を総合・再構成する。『つなげるシート』を作成することによって、事象の役割や意味をとらえ、単元全体をつないで考えたことを表現することができる。

小学校第6学年の単元「世界に歩みだした日本」で実践授業を行い、小学校社会科の歴史学習において、思考力・表現力を高めるために、「追究の観点」をふまえた学習活動に『つなげるシート』の作成を取り入れることが有効であるかを検証した。

V 研究のまとめ

1 成果

- 教師が単元で獲得すべき知識や概念を構造化して「追究の観点」をふまえた学習活動を構想し実践することにより、単元を通して目的意識をもった課題追究ができた。また、事象のつながりを意識して連続的・関連的に事象をとらえることができ、思考力・表現力を高めることができた。
- 『つなげるシート』の作成を取り入れ、「単元をつなぐ学習課題」の答えを自分の言葉で表現する活動は、事象の役割や意味についての思考を整理し、単元全体の学習をつないで考えたことを表現する手だてとして有効であった。

2 課題

- 小学校社会科の歴史学習の複数の単元で、「追究の観点」をふまえた学習活動を構想し実践する必要がある。考えたことを表現する学習活動を継続的に位置付けることにより、小学校社会科の歴史学習が充実し、思考力・表現力を高めることができると考える。

VI 研究の内容

1 小学校社会科の歴史学習における思考力・表現力を高めるとは

社会科における思考力とは、社会的事象の意味や特色、相互の関連について考える力であり、比較・関連付け・総合などの思考方法により多面的・総合的になり、公正な判断力を含むものに成長していくものである。また、表現力とは、思考力を生かして考えたことを表現する力である（澤井、2014）。

思考力・表現力は、習得した知識・技能を活用して、学習課題を解決するために必要とされる力であり、関連する力として総合的にとらえ高めていくことが大切である。そのためには、単元で獲得すべき知識や概念を構造化した単元構想をし、単元全体の学習に見通しをもった課題追究をする中で、考えたことを表現する学習活動を充実させることが有効であると考えられる。

歴史的事象について思考力を高めるためには、「比較して考える」「関連付けて考える」「総合して考える」といった方法がある。「比較して考える」とは複数の事象を比べ、共通点や相違点、またその理由を考え、事象の特色を明らかにすることである。「関連付けて考える」とは、事象間の結び付きを見付けその関係を考えることで、事象相互の成因、影響などを明らかにすることである。そして、比較・関連付けの思考は、全体を「総合して考える」思考に高まっていく。「総合して考える」とは、比較・関連付けなどによってとらえた事象の特色や相互の関連などについて、全体としてまとめると何が言えるのかを考えるようにすることである。このことにより、事象のもつ役割や意味について自分なりの考えがもてるようになる。

また、歴史的事象について表現力を高めるためには、比較・関連付け・総合といった思考・判断をする中で、自分の考えを根拠や解釈を示しながら図や文章などで表し説明する活動を設定することが大切である。この場合、比較・関連付けの観点を明確にして資料や事象を分析すること、筋道を立てて考えを説明することが必要である。事象や情報を整理して考える時間を確保すること、比較・関連付け・総合の視点や方法を示すことで、自分なりの考えを表現できるようになると考える。

2 「追究の観点」をふまえた学習活動に『つなげるシート』の作成を取り入れるとは

(1) 「追究の観点」をふまえた学習活動とは

「追究の観点」とは、単元の学習を「政治」「外交」「産業・文化」の三つの観点別に整理し構想するものである。観点を定めることにより、学習課題を解決するための見通しをもった追究ができると同時に、事象を連続的・関連的にとらえやすくすることができ、その役割や意味について考える力を高めることができる。また、小学校社会科の歴史学習では、学習内容が上記の観点を中心に構成されているため、先人の業績の価値や意義をとらえる際、三つの観点別に分類することで思考を整理することができ、思考力を高めることができる。

「追究の観点」をふまえた学習活動とは、学習内容とその配列を工夫した単元構想により、観点に沿って事象を比較・関連付け・総合しながら追究し、考えたことを表現する学習活動を充実させるものである。

具体的には、まず、単元のつかむ過程において、前単元までに学習した既習の資料と本単元で扱う未習の資料とを比較することから、「単元をつなぐ学習課題」を設定する。資料の比較により、図1のように、単元相互の学習をつなぐと同時に、本単元全体の学習をつなぐことができる。単元相互の学習をつなぐことで、学習のつながりを意識することができ、事象を連続的・関連的にとらえる力を高めることができる。単元全体の学習をつなぐことで、単元全体の学習に見通しをもち、目的意識をもった課題追究ができる。その中で、事象間のつながりを考えながら、事象の役割や意味について考える力を高めることができる。そして、年表を活用して「単元をつなぐ学習課題」に対する予想をし、それを分類・整理する

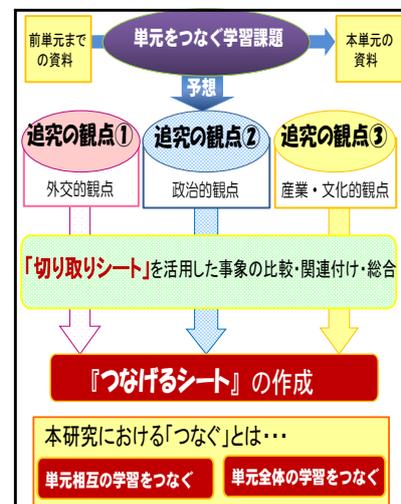


図1 追究の観点をふまえた学習活動の構想

ことで、「追究の観点」を設定する。このことで、単元全体の学習をつなぐ見通しをもつことができる。

次に、追究する過程において、「追究の観点」に沿って資料を収集・選択し、ワークシートに学習を積み上げていく。その際、『切り取りシート①』（資料1）を活用する。これは、教科書や資料集に掲載されている資料を中心に、一枚のシートにまとめたものである。このシートの資料を活用し、関連する事象について調べながら、「比較して考える」活動や「関連付けて考える」活動を取り入れる。このことにより、事象相互の連続性・関連性に気づき、事象間のつながりを明確にして考えたことを表現することができる。

最後に、考え・まとめる過程において、「総合して考える」活動として、『つなげるシート』の作成を取り入れる。

(2) 『つなげるシート』の作成とは

『つなげるシート』とは、「単元をつなぐ学習課題」の答えを「追究の観点」ごとに再構成し、単元全体の学習をつないで考えたことを表現するものである。追究した結果から、必要な資料や知識を取捨選択し重要なことだけを抽出して、単元の学習を総合・再構成する。

その際、『切り取りシート②』（資料2）を活用する。『切り取りシート②』は、『切り取りシート①』の資料を精選し、事象を象徴する基礎資料と関連付けを補足するチャレンジ資料に分けて構成するものである。この資料を「追究の観点」ごとに類型化し、資料3のような『つなげるシート』を作成する。

そして、資料のつながりを矢印や線で表現し、説明や考えを言葉や文章で書くことで、単元全体の学習を比較・関連付け・総合した思考を整理し、事象の役割や意味をとらえ、単元全体をつないで考えたことを表現することができ、思考力・表現力を高めることができる。

資料1 『切り取りシート①』



資料2 『切り取りシート②』



資料3 『つなげるシート』の様式



3 先行研究とのつながり

群馬県総合教育センター長期研修員の先行研究では、習得した知識や概念を関連図に構造化して表現する学習活動、学習問題の設定・検証により事象の意味を考える学習活動、単元の学習を通して考えたことを再構成し論述する学習活動を取り入れた実践的研究がある。その中で、単元を貫く課題の選定、思考を促す資料の開発、学習の関連付けを分かりやすく表現させる工夫が課題として挙げられている。その解決に向けて、単元相互や単元内をつなげた構想に基づく学習課題の設定や提示資料の精選、事象間の関連を明確にした授業展開の工夫、考えを表現する活動の充実が必要である。具体的には、次の4点により、小学校社会科の歴史学習を充実させ思考力・表現力を育成できると考える。

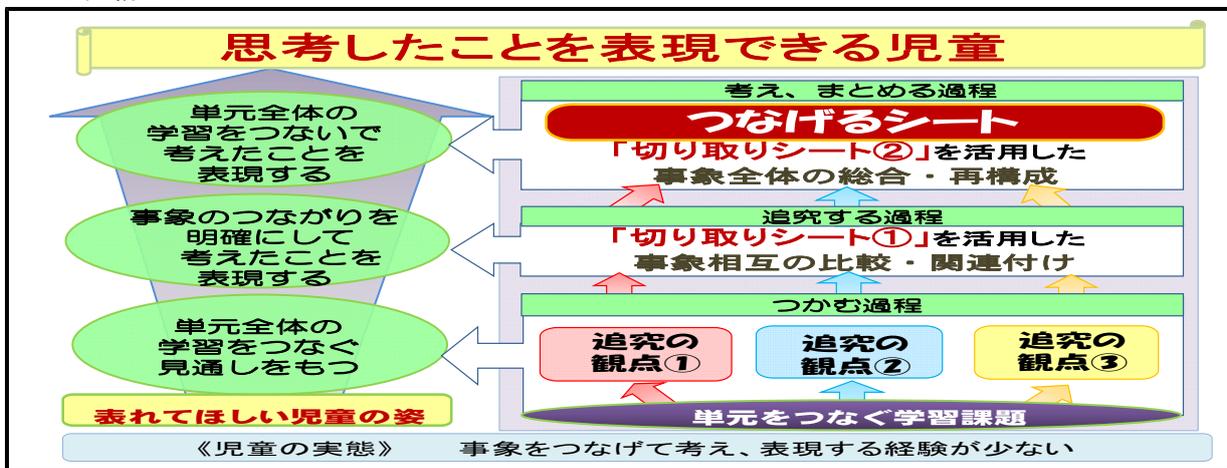
- ・教師が獲得すべき知識や概念を構造化した単元構想をし、単元相互をつなぐと同時に単元全体の学習をつなぐための「単元をつなぐ学習課題」を設定すること
- ・単元相互をつなぐ資料の精選、「追究の観点」に沿った思考を促す資料の精選をすること
- ・「追究の観点」に沿った課題追究をすることにより、事象間のつながりを明確にして比較・関連付けた考えを表現することができる学習活動を設定すること
- ・『つなげるシート』の作成を取り入れて、単元の学習を総合・再構成した考えを表現することができる学習活動を設定すること

4 研究協力校実態調査からの課題

全国標準学力検査NRT（社会科）の結果から、能力別得点率において説明・表現力に課題があり、事象の意味を考え表現する力が十分に身に付いていないことが明らかになった。その結果を受けて、アンケートを実施したところ、学習課題の答えを予想して考えをもつことや、分かったことを文章で書いたり言葉で説明したりすることが苦手であると回答した児童が多く、学力検査の結果を裏付けている。これは、自分の考えを整理し表現することに慣れていないためである。そこで、学習課題に対しての考えをまとめ、表現する活動を充実させることが必要であると考えられる。

歴史学習においては、自作テストの結果から、事象の内容を把握することは概ねできているが、事象を比較し関連付けて考えることが十分でない状況が見られる。これは、事象の要因や影響、事象間の共通点や相違点など、ほかと比較して関連に気づき、事象の役割や意味についての考えを深める経験が少ないためである。そこで、事象を比較・関連付け・総合して単元全体の学習をつなげた考えがもてる工夫や、既習事項と比較・関連付けて単元相互をつなげた考えがもてる工夫をする必要があると考える。

5 研究構想図



VII 研究の計画と方法

1 実践計画

対象	研究協力校 小学校第6学年 74名
実践期間	平成25年10月15日～11月8日
単元名	世界に歩みだした日本
単元の目標	各種資料を効果的に活用して、明治政府の諸政策、立憲政治の確立、日清・日露戦争、産業の発達、科学の発展について調べ、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上していったことを理解する。

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	つかむ過程において、「単元をつなぐ学習課題」に対する予想から、「追跡の観点」を設定することは、単元全体の学習をつなぐ見通しをもつことに有効であったか。	ワークシートの分析 活動状況の観察 記録用写真 振り返りシート 事後アンケート
見通し2	追跡する過程において、『切り取りシート①』を活用し、「追跡の観点」に沿って事象を比較・関連付けることは、事象間のつながりを明確にして考えたことを表現することに有効であったか。	
見通し3	考え・まとめる過程において、『切り取りシート②』を活用し、「追跡の観点」ごとに再構成した『つながるシート』を作成することは、単元全体の学習をつないで考えたことを表現する力を高めることに有効であったか。	

3 抽出児童

A	考えに自信がもてず、思考をまとめ表現することが苦手である。比較・関連付け・総合する視点を示すことで、自分なりの考えが表現できるようにしたい。
B	事象の役割や意味を考え表現することが十分でない。単元を通した課題意識をもたせ、比較・関連付け・総合する方法を示すことで、根拠を示して考えが表現できるようにしたい。

4 評価規準

社会的な 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的な事象について の知識・理解
我が国の国力が充実し、国際的地位が向上していった過程に関心をもち、学習課題について、意欲的に調べている。	我が国の国力が充実し国際的地位が向上していった様子を我が国の近代化、外国との関係、産業や科学の発展を通して考え、資料を活用して表現することができる。	「追跡の観点」に沿って、年表や写真、文章資料、地図、統計などの資料を効果的に活用し、国力の充実と国際的地位の向上について読み取ることができる。	我が国の近代化、外国との関係、産業・科学の発展などを通して、我が国の国力が充実し国際的地位が向上していったことを理解している。

5 指導計画

時	学習活動	研究上の手だて
1	<p>○資料岩倉使節団の写真資料（既習）から、不平等条約の締結とその改正交渉について振り返る。陸奥宗光、小村寿太郎の写真資料（未習）について調べ、条約改正という共通点に気付く。</p> <p>○《単元をつなぐ学習課題》をつくる。 条約改正が実現できたのはなぜだろう</p> <p>○学習課題に対する予想を付箋紙（緑色）に書く。</p> <p>○略年表で「認められるきっかけ」を調べ、「認められるために必要なこと」から「追究の観点」を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見つけた事象を発表する。 ・事象の関連性から、認められるために必要なことを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《追究の観点》</p> <p>①強い国になる ②国のしくみが整う ③豊かな国になる</p> </div> <p>○教科書の資料が、どの観点にかかわるものかを調べ、3色の付箋紙（①ピンク②水色③黄色）を貼っていく。</p> <p>○この単元で「どんなことを勉強していきたいか」を振り返りシートに書く。</p>	<p>○資料の提示により問題を発見させ、「単元をつなぐ学習課題」を設定する。岩倉使節団の交渉時には、「NO」だった条約改正が、40年後に「YES」になったのはなぜかという問題の発見を学習課題につなげていく。</p> <p>○略年表を配付し、認められるきっかけとなりそうな事象を見付けさせる。</p> <p>○事象を分類し、認められるために何が必要であったかを考えさせることで、「追究の観点」を絞っていく。単元の学習を「政治」「外交」「産業・文化」の観点ごとにとらえられる観点を設定する。「追究の観点」は、日本の国際的地位の向上、国力の充実につながるものとする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">日米修好通商条約</p> </div>
2	<p>《資料の比較・関連付けの手順》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①観点到合致すると思われる事象を選ぶ。 ②『切り取りシート①』の資料の中から、必要な資料を収集・選択し、ワークシートに貼る。 ③資料や事象について調べ分析する。 ④調べたことを確認しながら、事象の比較・関連付けをしていく。 ⑤比較・関連付けしたことをまとめ、文章で表現する。 <p>[観点2「国のしくみが整う」を追究する]</p> <p>○資料を活用し、我が国の国内制度の近代化について調べ、立憲政治を確立したことが国家として認められる要因となり、国際的地位が向上したことをとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板垣退助や伊藤博文の業績を調べることによって、自由民権運動が国会開設へのきっかけとなったことについて、考えを表現する。 <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憲法ができた後、選挙が行われ帝国議会が開かれて、近代的なしくみが整ったことが、我が国の国際的地位の向上につながったことについて、考えを表現する。 	<p>○単元にかかわる資料を1枚にまとめ、『切り取りシート①』として、必要な資料を切り取って使わせる。『切り取りシート①』から資料を収集し、ワークシートに学習を積み上げいく。</p> <p>○「追究の観点」に沿って資料を収集し、比較・関連付けながら学習を進めることにより、相互の関連性に気付きやすくする。</p> <p>○ワークシートには、比較・関連付けが文章で表現できるスペースをつくり、授業のまとめとして、考えを記述させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《事象の比較・関連付け》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由民権運動と国会開設の比較・関連付け (板垣退助、大久保利通、大隈重信、伊藤博文) ・大日本帝国憲法と帝国議会の比較・関連付け (内閣制度、憲法の内容、衆議院議員選挙、帝国議会) </div> <p>○自由民権運動が国会開設へのきっかけとなったこと、伊藤博文らの働きにより憲法が施行され立憲国家になったこと、衆議院議員選挙を経て議会政治が始まったことについて比較・関連付けをしていく。</p>
4	<p>[観点1「強い国になる」を追究する]</p> <p>○資料を活用し、富国強兵策（近代軍の編成）、日清・日露戦争について調べ、列強の一員としての地位の確立が国家として認められる要因となり、国際的地位が向上したことをとらえる。</p> <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当時の国際状況から強い国づくりが必要であったことについて、考えを表現する。 ・日清・日露戦争を調べ、二つの戦争の勝利が我が国の国際的地位の向上につながったことについて、考えを表現する。 <p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二つの戦争後の領土の拡大と戦争に対する国内外の反応について、考えを表現する。 	<p>○富国強兵策により近代軍が作られたこと、日清・日露戦争の勝利により領土を拡大しアジアの強国として列強の一員になったことについて比較・関連付けをしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《事象の比較・関連付け》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・列強帝国主義と富国強兵策の比較・関連付け (世界分割、岩倉使節団、徴兵令、軍備増強) ・日清・日露戦争の比較・関連付け (背景、戦場、戦費、講和条約) ・領土拡大と事象との比較・関連付け (1890年、1900年、1905年、1910年日本の領土) </div>
7	<p>[観点3「豊かな国になる」を追究する]</p> <p>○資料を活用し、産業の発達、教育の普及、生活の近代化について調べ、豊かな国として認められる要因となり、国力が充実したことをとらえる。</p> <p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明治政府の政策により教育が普及し、科学者らの活躍を通して我が国の国際的地位が向上したことについて、考えを表現する。 ・明治政府の産業育成策による工業の発達について調べ、我が国の国力が充実したことについて、考えを表現する。 	<p>○生活の西洋化が進んだこと、教育の普及が国際社会で活躍する人の誕生につながったこと、税金の安定と産業振興策、戦争とのかわりて産業が発達したことについて比較・関連付けをしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>《事象の比較・関連付け》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の普及と科学の進歩の比較・関連付け (学制、小学校進学率、野口英世、新渡戸稲造) ・貿易と国内産業の変化の比較・関連付け ・日清・日露戦争と産業の比較・関連付け (戦争関係費、賠償金、八幡製鉄所) </div>
9	<p>《資料の総合・再構成の手順》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①『切り取りシート②』の中から、必要な資料を選んで、切り取る。 ②選んだ資料を並べ、シートの上に置く。 ③グループで交流し、説明し合う。 ④構成を考えて、資料をシートに貼る。 ⑤資料のつながりを一で、説明や考えを吹き出しで、下部の枠にまとめて書く。 <p>○単元の学習を通して分かったこと、考えたことを表現する。</p> <p>○出来上がった『つなげるシート』を発表し、評価し合う。</p>	<p>○『切り取りシート②』から、必要な資料を切り取って使わせる。</p> <p>○必要に応じて、ワークシートを見直ししながら、大切なところをピックアップして『つなげるシート』に再構成させる。</p> <p>○観点1、観点2、観点3の順に、事象を比較・関連付け・総合しながら、資料を再構成し図に表すように指示する。</p> <p>○イメージがもてるよう、サンプル作品を提示する。</p>

Ⅷ 実践の結果と考察

小学校第6学年の単元「世界に歩みだした日本」において実践授業を行い、小学校社会科の歴史学習において、思考力・表現力を高めるために、「追究の観点」をふまえた学習活動に『つなげるシート』の作成を取り入れることが有効であることを検証した。

1 単元全体の学習をつなぐ見通しをもつこと

(1) 結果

まず、本単元で学習する陸奥宗光と小村寿太郎の写真資料を提示し、名前と業績の共通点を調べる活動を行った。そして、明治初期の岩倉使節団の交渉時に果たせなかったことが40年後に達成できたという事実から「条約改正ができたのはなぜか」という「単元をつなぐ学習課題」の設定につながった。これに対して児童は、当時の国際状況の下、欧米諸国から文明国として認められる必要があったことに気付き、きっかけとして予想される要因を略年表から調べた。児童が予想した要因を分類し「追究の観点」を設定するまでの展開は、図2のとおりである。予想した要因は一枚の付箋紙に一つずつ書いた後、発表した。その発表内容を児童が分類した結果、欧米諸国から認められるために必要な条件として、①強い国になる②国のしくみが整う③豊かな国になるを「追究の観点」として、学習を進めていくことになった。

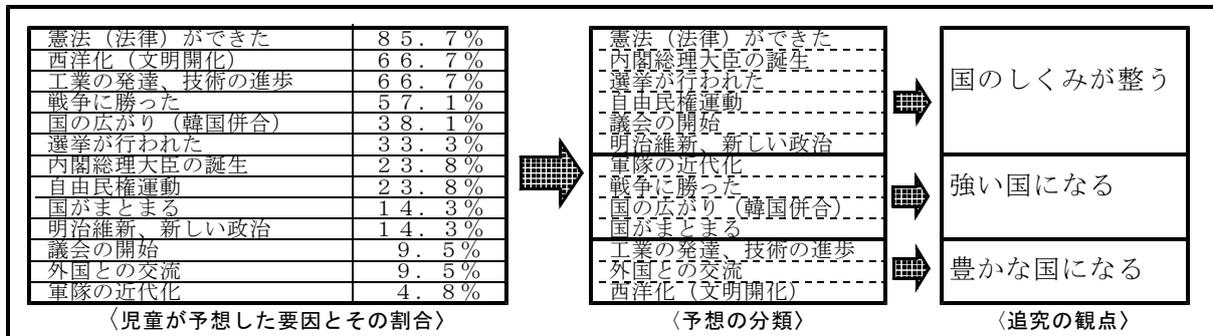


図2 「追究の観点」を設定するまでの展開

そして、考え・まとめる過程で活用する『つなげるシート』に、「単元をつなぐ学習課題」と、「追究の観点」を記入することで、以降の活動に見通しをもつことができた。さらに、予想を書いた付箋紙を資料4のように「追究の観点」ごとに整理した。

その後、単元内で学習する教科書の資料

を「追究の観点」ごとに分類する活動を行った。4人グループでの交流を取り入れ、どの観点にかかわるものかを相談しながら、3色の付箋紙（①強い国になる＝ピンク、②国のしくみが整う＝水色、③豊かな国になる＝黄色）を貼ることで、単元全体の学習をつなぐ見通しをもつことができた。

授業後の「振り返りシート」の結果は、図3のとおりである。抽出児童Aは「政治やしくみや文化が変わって日本はどう新しくなっていくのか知りたい。日本がどう強い国になっていくのか知りたい」と3観点について記述できた。抽出児童Bは「なんで戦争が起きたのか、戦争の結果はどうなるのか勉強したい。どうして急に豊かな国になっていったのか調べたい」と2観点について記述できた。

資料4 予想を分類した抽出児童Bの『つなげるシート』

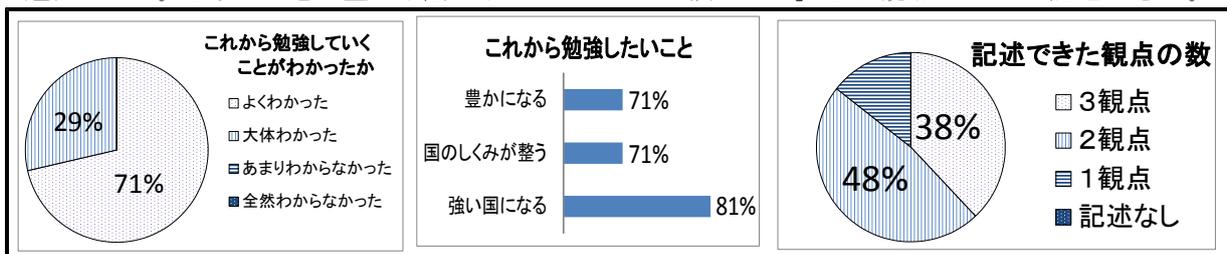
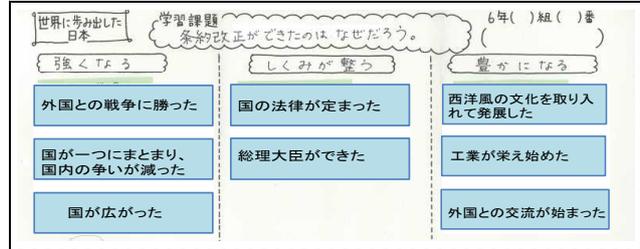


図3 つかむ過程での「振り返りシート」の結果

(2) 考察

「単元をつなぐ学習課題」は、欧米諸国から認められ条約改正が達成できたという事実を単元の中核とすることで、単元のねらい「我が国の国際的地位の向上と国力の充実が分かる」に迫ることができると考え、あらかじめ教師が構想したものである。また「我が国の国内制度の近代化」は前単元で扱う内容であるが、本単元で扱った理由は、立憲政治を確立したことが国家として認められる要因となり、国際的地位が向上したととらえることができると考えたためである。

課題設定においては、既習の絵資料（岩倉使節団）と未習の写真資料（陸奥宗光、小村寿太郎）を提示し、その変化から条約改正という事象を中核として学習を進めることを確認した。そのことで、前単元との学習のつながりをとらえながら、本単元全体のつながりを考え学習に見通しをもつことができた。

また、日本が文明国として認められるための要因を、年表から予想して付箋紙に書くことや分類しながら「追究の観点」を設定することで、学習に見通しをもつことができた。さらに、本単元で学習していく資料がどの観点にかかわるものかを予想し調べること、考え・まとめる過程において作成する『つなげるシート』に「単元をつなぐ学習課題」と「追究の観点」を記入することで、学習のつながりを意識することができた。

前単元『明治の国づくり』と本単元『世界に歩みだした日本』での児童の見通しの比較は、図4のとおりである。

「これから勉強していくことが分かったか」について、本単元での肯定的回答が増えている。また「これから勉強したいこと」について、記述できた観点の数も増加傾向にある。これは、単元をつかむ過程で、単元全体の学習をつなぐ見通しをもち、学習を進める方法に慣れたためであると考えられる。この結果から、単元をつかむ過程において、学習をつなげた見通しをもたせる活動は、複数の単元での経験を積み重ねることで、さらに効果的になると考える。

以上のことから、つかむ過程において、「単元をつなぐ学習課題」に対する予想から、「追究の観点」を設定することは、単元全体の学習をつなぐ見通しをもつことに有効であると考えられる。

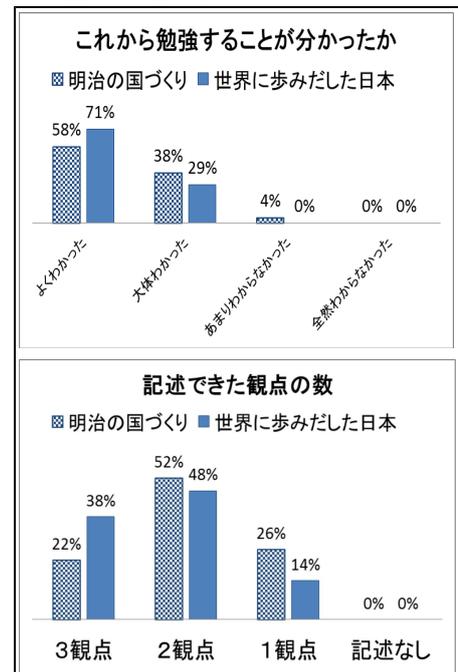


図4 前単元と本単元の見通しの比較

2 事象間のつながりを明確にした考えを表現すること

(1) 結果

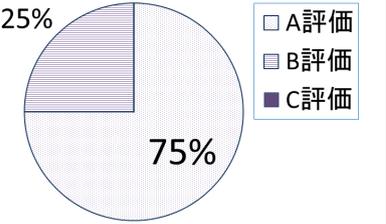
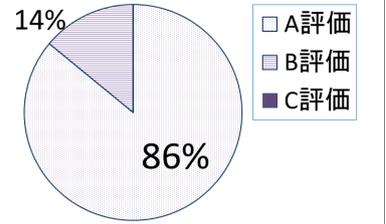
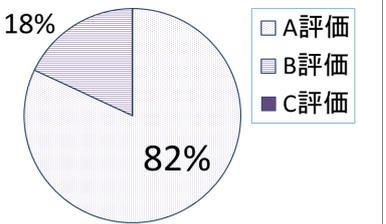
『切り取りシート①』を活用して、「追究の観点」ごとに必要な資料を選び、ワークシートに貼りながら資料を分析したり、かかわる事象について調べたりする活動を行った。そして、調べたことを確認しながら事象の比較・関連付けをした。

また、前時までの学習とつなげた授業展開のために、授業の導入部で、前時までに活用した資料をフラッシュカードで提示し、事象や人物名、関連について、観点ごとの復習を積み重ねた。このことで、事象の特色や事象間の関連を繰り返し考えることができた。

授業のまとめでは、「分かったことや考えたこと」を文章で記述し、資料や事象の特色、相互の関連性についてまとめる活動を行った。抽出児童Aは、考えに自信がもてず、思考をまとめ書き始めるまでに時間がかかったが、比較・関連付けの視点を示したり、記述のよさを評価し称賛したりすることにより、自信をもって考えを表現する姿が見られるようになった。抽出児童Bは、事象を順に書き並べることが多かったが、事象相互の成因や影響などを意識するように指導したところ、比較・関連付けた根拠を示しながら考えを表現できるようになった。

事象の比較・関連付けを評価した結果と抽出児童の記述は、表1のとおりである。

表1 事象の比較・関連付けの様子を評価した結果と抽出児童の記述

	事象の比較・関連付けの評価	抽出児童A ＝ 部は、自分なりの考えの表現	抽出児童B ～ 部は比較・関連付けの根拠
第2・3時	 <p>A評価：武力から言論への移行、自由民権運動の意義、立憲国家への推移を比較・関連付けて表現することができた。 B評価：比較・関連付けに十分でない部分がある。 C評価：比較・関連付けができない。</p>	<p>②西郷隆盛が西南戦争をおこし失敗した。その後、板垣退助は自由民権運動をし、国会を開くことをうったえた。伊藤博文は、国会を開くことを約束し、ドイツで憲法を学び、憲法を作った。<u>政府は天皇中心の政治を始めた。</u></p> <p>③政府は、伊藤博文を中心にドイツの憲法を手本にし、主権が天皇にある大日本帝国憲法をつくった。憲法にもとづいて選挙が行われ議院が開かれて、議会政治が始まった。<u>憲法ができ、選挙が行われ議会政治が始まったので、欧米に認められた。</u></p>	<p>②板垣と西郷が木戸と大久保とは意見がちがいで、板垣と西郷は政府を去ってしまった。西郷隆盛は西南戦争でやぶれ、<u>これ以降武力による反乱はなくなり言論で主張する世の中へと変わっていった。</u>板垣退助は自由民権運動を広めていった。伊藤博文は最初は取りしまっていたが、<u>その勢いにおされ、国会を開くと約束して準備に入る。</u></p> <p>③<u>自由民権運動をきっかけとして</u>大日本帝国憲法が公布された。これは伊藤博文がドイツで学んだ憲法を手本にしたもので、天皇に主権があった。また、衆議院議員選挙が行われ、帝国議会が開かれた。<u>国内の法律が整い、日本ならではの憲法や議会などができ、文明国になりかけたので欧米に認められた</u></p>
第4・5・6時	 <p>A評価：当時の国際状況、徴兵令、日清日露戦争、韓国併合について調べながら、富国強兵策、戦争の勝利と領土の拡大を比較・関連付けて表現することができた。 B評価：比較・関連付けに十分でない部分がある。 C評価：比較・関連付けができない部分がある。</p>	<p>④岩倉使節団が世界をまわって、<u>支配されている国や大きい支配している国を見て、強くて豊かな国をつくることを目指す。</u>そして、明治政府は徴兵令の法令を出す。でも、徴兵されない人もいた。</p> <p>⑤二つの戦争をして、日本は二つとも勝った。それで日本の領土がいろいろ変わり、何倍も大きな国に勝ったことで日本は外国から強くなったと認められた。<u>ペリーの時はいやと言えない弱国だったけど、戦争に勝つと逆になり、強いと思われるようになった。</u></p> <p>⑥1910年、人々の抵抗を軍隊でおさえ、韓国併合をし、朝鮮を植民地にした。<u>朝鮮では自分の国の文化を学べなくなりかわいそうだった。日本は、強い国と思われ外国に認められたので、条約改正に大きく近づいた。</u></p>	<p>④日本が江戸から明治になるうとしていた時、世界は他国の領土をうばい合っていた。<u>それを見た明治政府の人たちは日本が支配されないように、徴兵令などを行い、強くて豊かな国を目指した。</u></p> <p>⑤日清戦争で、清に勝ちリャオトン半島と台湾を手に入れた。その後、ロシアなどの国にリャオトン半島の領土を「返せ！」と言われ、こわかった日本は領土を返した。日露戦争があり、樺太の南半分とリャオトン半島の一部を手に入れた。<u>二つの戦争を通して、「日本て意外と強い」と思われるようになった。</u></p> <p>⑥日本は日清戦争や日露戦争に勝って、<u>強い国になった。</u>日露戦争は日清戦争より、お金をかけたり兵をたくさん連れて行ったり兵の死が多くて、与謝野晶子や内村鑑三など戦争に反対する人もいた。その後、朝鮮を植民地にして、領土を広げた。</p>
第7・8時	 <p>A評価：生活の西洋化、教育の普及と国際社会で活躍する人の登場、産業振興策と産業の発達を比較・関連付けて表現できた。 B評価：比較・関連付けに十分でない部分がある。 C評価：比較・関連付けができない。</p>	<p>⑦明治時代になり学校がつくられ、小学校に行った人の割合がだんだん増えていった。そして、世界で活躍する日本人（野口英世、新渡戸稲造）が登場し、全国水平社ができたり、女性の地位を向上させる運動も起こった。</p> <p>⑧国が富岡製糸場や八幡製鉄所を造って、工業がさかんになった。渋沢栄一はたくさんの会社や銀行を造って、活やくした。<u>産業が発達して、工場や会社、働く人が増えて、貿易もさかんになった。</u></p>	<p>⑦教育が広がり、小学校に通う人も明治の終わりに男子と女子の両方が100%に近づいた。その中で野口英世が黄熱病の研究をし、新渡戸稲造が国際連盟の事務局次長となって世界で活やくした。民主主義の意識が高まり、全国水平社がつくられ、平塚らいてうは女性運動を行った。<u>日本人がかしこくなって、豊かな国になっていった。</u></p> <p>⑧明治の初めは官営工場の富岡製糸場がつくられ、日清戦争の賠償金で八幡製鉄所がつくられて、日本の工業が発達した。工場の数は日清戦争のころからぐんと増え、輸出の方が多くなっていった。<u>産業が発達したことで、さらに豊かになった。</u>その中、足尾銅山鉍毒事件が起こって、田中正造が農民のために立ち上がった。</p>

(2) 考察

表1のとおり、事象の比較・関連付けの様子を評価した結果を基に、次のように考察した。

比較・関連付けの様子を評価したところ、「国のしくみが整う」については75%、「強い国になる」については86%、「豊かな国になる」については82%の児童がA評価であった。

これは、「追究の観点」をふまえた学習活動により、「政治」「外交」「産業・文化」の観点ごとに事象を整理しながら比較・関連付けて追究していくことで、事象間のつながりを明確にした学習活動ができたためであると考えられる。また、『切り取りシート①』から選択した資料をワークシートに貼りながら、事象について調べる活動を取り入れたことで、学習を焦点化して事象間のつながりを明確にすることができた。さらに、授業の導入部でフラッシュカードを活用し、前時までの学習のつながりを復習しながら繰り返し考えたことは、知識を定着させるとともに、事象間をつなげて観る考え方を定着させることに有効であった。

一方、B評価の児童は、学習した事象の中で印象深いことを中心につなげて表現する、事象を順に書き並べて表現しつながりが明確でないなどの点で不十分さがあった。比較・関連付けて考える活動を重ねることや表現のよさを評価することで、事象間のつながりを考え表現する力を高めていくことができる。

以上のことから、追究する過程において、『切り取りシート①』を活用し、「追究の観点」に沿って事象を比較・関連付けることは、事象間のつながりを明確にして考えたことを表現することに有効であると考えられる。

3 単元全体の学習をつないで考えたことを表現すること

(1) 結果

『切り取りシート②』を活用し、「単元をつなぐ学習課題（条約改正ができたのはなぜか）」の答えを根拠や解釈を示して表現する活動として『つなげるシート』の作成を取り入れた。これは『切り取りシート②』から収集・選択した資料を「追究の観点」ごとに類型化して、追究する過程での学習から重要なことだけを抽出して、単元全体の学習を総合・再構成するものである。

まず、『切り取りシート②』から「追究の観点」①強い国になるにかかわる資料を選択し、時系列で並べる活動を行った。ここで、下位の児童への支援として、4人グループで説明し合う活動を取り入れた。抽出児童Aは、基礎資料の中から「徴兵令」「日清戦争」「日露戦争」「韓国併合」を表す絵資料や写真資料を迷わず切り取り、積極的に説明をする姿が見られた。抽出児童Bは、チャレンジ資料の地図資料も活用し、日清戦争と日露戦争が比較できるようにしたいという工夫を説明しながら、構成を考えていた。

次に、各自で構成を考えて資料を『つなげるシート』に貼り、資料のつながりを矢印や線で表現し、説明や考えを言葉や文章で書く活動を行った。必要に応じて、ワークシートや教科書を見直して思考を整理しながら、活動を進めることができた。

最後に、事象の特色や関連付けを総合した考えを『つなげるシート』下部に文章で記述する活動を行った。抽出児童Aは「日本は日清・日露戦争に勝って、日本もなかなかやるなど、外国に認められた」と記述し、戦争の勝利と国際的地位の向上を結び付けることができた。抽出児童Bは「徴兵令で強い軍隊をつくり、日清戦争や日露戦争に勝ったり韓国併合をしたりして、強い国になったので条約改正ができた」と記述し、根拠を明確にして学習課題に対する総合した考えを表現することができた。

観点②・③についても、同様に活動を進めた。「追究の観点」②国のしくみが整うについては、人物と業績や事象間のつながりを関連させて活動できた児童が多かった。「追究の観点」③豊かな国になるについては、資料の収集・選択はできたが、教育の普及や産業の発達、生活の西洋化について関連付けて総合する場面で、難しさを感じる様子も見られた。

『つなげるシート』を評価した結果と抽出児童の記述は、表2のとおりである。

表2 『つなげるシート』を評価した結果と抽出児童の記述

	資料の活用、事象の関連付け	抽出児童 A	抽出児童 B
観点① 強い国になる	<p>基礎資料4種を比較・関連付けで構成することができた</p> <p>97% できた, 3% 不十分</p> <p>資料と事象の関連付けができ、言葉や文章で説明できた</p> <p>86% 説明できた, 14% 説明が不十分</p>	<p>強い国になる</p> <p>徴兵令 (身体検査) 徴兵ではない。</p> <p>1894年〜 ↓</p> <p>← 日清戦争</p> <p>朝鮮の内乱がきっかけ</p> <p>日本の勝利!!</p> <p>日本は... 台湾とリャオトン半島と多額のはいしよ金を手に入れた。</p> <p>1904年〜 ↓</p> <p>← 日露戦争</p> <p>リャオトン半島の一部と樺太の南半分をはいしよ金のもう</p> <p>← 韓国併合</p> <p>朝鮮は独立運動を行う。</p> <p>日本は日清戦争や日露戦争に勝て、日本、なかなかやるなあと、外国に認められた。</p>	<p>強くなった</p> <p>徴兵令の検査中</p> <p>日清戦争 日本(清(中国)まっけは 朝鮮に内乱が起きたことと勝たるをロシアがねらっている... 勝ったのは日本!</p> <p>リャオトン半島(海)の賠償金をゲット!</p> <p>リャオトン半島を返して!</p> <p>日露戦争 日本は日清戦争の約9.2倍の戦死者を出した... 勝ったのは日本!</p> <p>リャオトン半島の南半分をゲット!</p> <p>韓国の併合をして 朝鮮を植民地に!</p> <p>徴兵令で強い軍をつくり、日清戦争や日露戦争に勝ち、韓国併合をして、強い国になったので条約改正ができた。</p>
観点② 国のしくみが整う	<p>基礎資料6種を比較・関連付けで構成することができた</p> <p>97% できた, 3% 不十分</p> <p>資料と事象の関連付けができ、言葉や文章で説明できた</p> <p>90% 説明できた, 10% 説明が不十分</p>	<p>国のしくみが整う</p> <p>自由民権運動 国会を開こう! 憲法をつくろう!</p> <p>板垣退助</p> <p>しーがないな。10年後くらいに開いてあげよう。(国会)</p> <p>伊藤博文</p> <p>大日本帝国憲法</p> <p>ドイツの憲法がもと。</p> <p>第一回衆議院議員選挙</p> <p>25以上の男子で一定の税金をおさめた人が投票できた。</p> <p>第一回帝国議会</p> <p>近代的な国の体制が整った。</p> <p>日本は近代的な国の体制が整ったため、外国に認められた。</p>	<p>国のしくみが整った</p> <p>自由民権運動 憲法をつくって国会を開いてくれ!</p> <p>自由民権運動がおさまらなかつた。</p> <p>国会を開こう!</p> <p>約束しよう!</p> <p>伊藤博文</p> <p>大隈重信・板垣退助</p> <p>憲法発布 & 国会開設</p> <p>大日本帝国憲法 発布</p> <p>帝回国議会</p> <p>初回の選挙!</p> <p>投票できる人 25以上の男子で一定の税金を納めた人</p> <p>自由民権運動があり、国会を開いたり、憲法を公布したり、選挙が行われて 近代的な国のしくみが整ったため条約改正ができた。</p>
観点③ 豊かな国になる	<p>基礎資料5種を比較・関連付けで構成することができた</p> <p>87% できた, 13% 不十分</p> <p>資料と事象の関連付けができ、言葉や文章で説明できた</p> <p>79% 説明できた, 21% 説明が不十分</p>	<p>豊かになる</p> <p>富岡製鉄場</p> <p>工業が進んだ。はいしよ金でたてた。</p> <p>八幡製鉄所</p> <p>学制 教育が進み</p> <p>野口英世 医者として世界にその名を知らせた。</p> <p>外国に「日本ってけっこう豊かだよ」とみせびらかした。</p> <p>← ダンスパーティー</p> <p>日本は産業が発達して、教育が進んで、世界でかっやくする人がでてきたため、外国に認められた。</p>	<p>豊かになった</p> <p>学校がみさうす3!</p> <p>世界でかっやくする人が出てきた</p> <p>野口英世 黄熱病の研究</p> <p>日本の科学ははてんする基礎が築かれる!</p> <p>明治はじめ</p> <p>産業がはてんする!</p> <p>足尾銅山の鉛毒 工場での働く人の労働条件 などの問題が</p> <p>鹿鳴館がでてる</p> <p>条約改正のため、洋風のダンスをおどる場をつかった。</p> <p>これを海外の人に見てもらい、交渉を有利にもっていこう!</p> <p>学校がみさうすうして世界でかっやくする人が出てきたり、産業がはてんしたり、鹿鳴館がでたりして豊かになったため条約改正ができた。</p>

授業後の「振り返りシート」の結果は、図5のとおりである。抽出児童Aは、「資料を使ってまとめるのは面白かったし、自分で書くのでよく覚えられた。自分の考えを書くのは難しかったけど、スラスラ書けるようになってうれしかった。社会をもっと学びたいと思った」と記述し、自信をもって考えを表現することができた。抽出児童Bは、「自分の考えを書くのは、その日の勉強を振り返ってよかった。自分の言葉でまとめるので、覚えられてよかったし、まとめる力がついたと思う。資料を使ってまとめる時は、色や配置を工夫して、矢印や吹き出しも使ってがんばった。まとめるのもすぐできるようになってうれしかった」と記述し、事象のつながりを意識し、根拠を示して考えを表現することができた。抽出児童Bの『つなげるシート』は、資料5のとおりである。

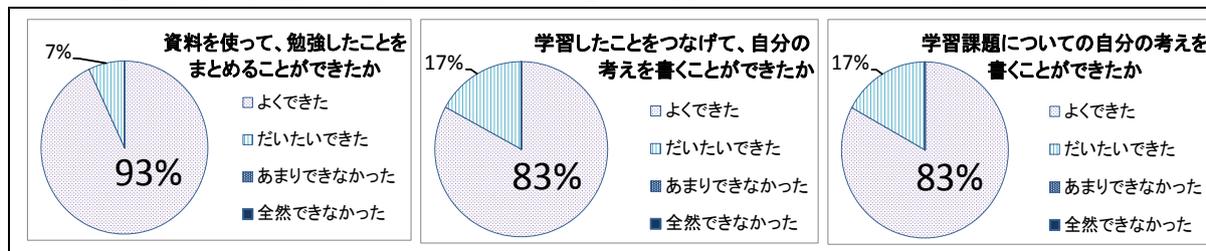


図5 考え・まとめる過程での「振り返りシート」の結果

資料5 抽出児童Bの『つなげるシート』

6年()組()番 ()

世界に歩み出した日本

学習課題 条約改正ができたのはなぜだろう。

強くなった

徴兵令の検査中

日清戦争 日本 vs 清(中国)

きっかけは朝鮮半島に内乱が起きたこと！勝った方をロシアがねらっている…勝ったのは日本！

露清戦争 日本 vs ロシア

日本は日清戦争の約9.2倍の戦死者を出した……勝ったのは日本！

ロシア半島、台湾の賠償金をゲット！

ロシア半島を返して！

露清戦争 日本 vs ロシア

日本は日清戦争の約9.2倍の戦死者を出した……勝ったのは日本！

ロシア半島、台湾の賠償金をゲット！

ロシア半島を返して！

その後 韓国併合をして朝鮮を植民地に！

徴兵令で強い軍たいをつくり、日清戦争や日露戦争に勝ち、韓国併合をして強い国になったので条約改正ができた。

国のしくみが整った

自由民権運動

憲法をつくらせて国会を開いてくれ！！

自由民権運動がおさまらないから国会を開くことを約束しよう！

板垣退助

自由民権運動

自由民権運動がおさまらないから国会を開くことを約束しよう！

板垣退助

伊藤博文

大隈重信・板垣退助

憲法発布 & 国会開設

大日本帝国憲法発布

伊藤博文がドイツの憲法をもとにつくった。主権が天皇にある憲法発布

国民の約1%が投票できる人25歳以上の男子で一定の額以上の税金を納めた

第1回帝国議会

初めての選挙

豊かになった

学校がふさぎ出す！

世界で治やくする人が黄熱病の研究

野口英世

日本の科学がはてんする基礎が築かれる！

明治はじめ

産業がはてんする！

足尾銅山の鉛毒

工場働く人の労働条件などの問題が

鹿鳴館ができる

条約改正のため、洋風のダンスをおどる場をつくった。

これを海外の人に見てもらい、交渉を有利にもってこよう！

学校がふさぎ出して世界で治やくする人が出てきたり、産業がはてんしたり、鹿鳴館ができたたりして豊かになったため条約改正ができた。

(2) 考察

表2のとおり、『つなげるシート』を評価した結果を基に、次のように考察した。

基礎資料を比較・関連付けて構成することは、追究する過程で扱った既習の資料を活用したことにより、無理なく活動できた児童が多かった。「追究の観点」①・②については97%の児童が関連を考えた活動ができた。しかし、「追究の観点」③については、関連付けが十分でなかった児童が13%であり、課題が残った。関連付けが難しかったのは、教育の普及と国際社会で活躍する日本人の登場との関連付けであった。また、教育の普及が、精神的な国の豊かさにつながるといふところが難しかった。本単元のつかむ過程の予想でも欧米諸国に認められる条件として児童が考えられなかったことから、追究する過程で、明治維新以降の教育普及策と小学校入学者の増加、それに伴う国際社会で活躍する日本人の登場を関連させ、丁寧に扱うことが必要である。

チャレンジ資料については、グラフ資料や地図資料の活用が少なかった。グラフ資料や地図資料から事象を読み取り、その有効性が分かる学習活動を継続することが必要である。

資料と事象を関連付けて言葉や文章で表現することは、ポートフォリオ化したワークシートを必要に応じて振り返ることができたことにより、思考を整理しながら工夫して取り組めた児童が多く、単元全体の学習をつないで考えたことを表現することができた。一方、重要なことを抽出する時に、何を選ぶかに個人差があり、事象の説明に不十分な箇所が見られた児童もいた。『つなげるシート』を作成する活動を重ねることで、まとめ方に慣れレベルアップが図れると考える。

総合した考えを『つなげるシート』下部に文章で記述する活動では、80%以上の児童が、資料の関連付けの根拠や解釈を自分の言葉で表現し、条約改正を中核として単元のねらいである「国際的地位の向上と国力の充実が分かる」に迫ることができた。しかし、約20%の児童は資料の比較・関連付けの根拠や解釈の表現はできたものの、「単元をつなぐ学習課題（条約改正ができたのはなぜか）」とつながる記述が不足していた。単元の学習課題を常に意識させることで、条約改正を達成するために欧米諸国から文明国として認められる必要があり、それに向けて国づくりが行われたことをとらえられるような指導の工夫改善をしていく。また、『つなげるシート』を相互評価させることで、ほかの児童の記述のよさに気付かせていくことが必要である。

授業後の児童の振り返りでは、「資料を使って学習をまとめること」「学習したことをつなげて考えを表現すること」「学習課題に対する考えを表現すること」のいずれの項目でも、全員の児童が「よくできた」「だいたいできた」と自己評価しており、『つなげるシート』を作成する学習活動が充実していたことが分かる。

以上のことから、考え・まとめる過程において、『切り取りシート②』を活用し、「追究の観点」ごとに再構成した『つなげるシート』を作成することは、単元全体の学習をつないで考えたことを表現する力を高めるのに有効であると考えられる。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- 「追究の観点」をふまえた学習活動を構想し実践したことで、単元を通して目的意識をもった課題追究をすることができ、単元の学習を連続的・関連的につなげることができた。「追究の観点」ごとに学習を整理しながら、「単元をつなぐ学習課題」と結び付けて事象を比較・関連付けることは、相互の関連性をとらえることに有効であった。
- 比較・関連付け・総合のための手だてとして、『切り取りシート』を活用したことにより、追究する過程では、資料を基に事象のつながりをとらえやすくすることができ、学習を積み重ねることができた。考え・まとめる過程では、追究する過程で活用した資料を基に考えを整理することができ、単元全体の学習をつないで考えたことを表現することができた。
- 授業のまとめとして「分かったことや考えたこと」を文章で記述する活動を繰り返すことで、考えを整理して表現することに慣れ、事象をつなげた考え方ができるようになった。記述する際

には、事象をつなげることを意識させることにより、比較・関連付けた根拠を示しながら考えたことを表現できるようになった。

- 『つなげるシート』の作成を取り入れ、「単元をつなぐ学習課題」の答えを自分の言葉で表現する活動は、事象の役割や意味についての思考を整理し、単元全体の学習をつないで考えたことを表現する手だてとして有効であった。順序やつながり確かめながら思考したことを組み立て直し、言葉や図で説明することにより、思考力・表現力を高めることができたと考える。

2 課題

- 思考力・表現力をさらに高めるためには、小学校社会科の歴史学習の複数の単元で、「追究の観点」をふまえた学習活動を構想し実践する必要がある。考えたことを表現する学習活動を継続的に位置付けることにより、小学校社会科の歴史学習が充実し、思考力・表現力を高めることができるかと考える。
- 汎用性という点から考えると、「追究の観点」に沿って収集する『切り取りシート』の資料の選定や準備の効率化を図ることが必要となる。
- 『つなげるシート』に総合した考えを記述する際、「単元をつなぐ学習課題」にかかわる記述が不足し、事象の関連付けの根拠や解釈にとどまるがあった。学習課題を常に意識させること、相互評価によりほかの児童の記述のよさに気付かせること、『つなげるシート』を作成する経験を重ねることが必要である。また、産業・文化的観点の事象は、並列にとらえがちで関連付けることが難しいことがあった。追究する過程での関連付けの方法を再考する必要がある。

X 今後の展望

思考力・表現力を関連する力として総合的にとらえ高めていくために、複数の単元で継続的に「追究の観点」をふまえた学習活動を構想し実践しながら、『つなげるシート』に総合・再構成していく学習方法を積み重ねていきたい。

このことにより、目的意識をもって課題追究ができると同時に、事象を連続的・関連的にとらえながら、その役割や意味を考える力を高めることができる。事象の役割や意味をとらえる際、「政治」「外交」「産業・文化」といった観点でとらえる見方や考え方を育成することができ、知識のネットワークをつくることができる。

「追究の観点」を構想する際、「政治」「外交」「産業・文化」の3観点にすることで、単元ごとに作成した『つなげるシート』を比較し、共通点や相違点を見いだすことができる。

具体的には、表3のような活動が考えられる。

表3 複数の単元での「追究の観点」をふまえた学習活動の構想例

単元名	導入部で提示する資料 →単元をつなぐ学習課題	追究の観点		
		外交的観点	政治的観点	産業・文化的 観点
江戸幕府の政治	「平安末以降」と「江戸時代」の略年表の比較 →『江戸時代が長く平和に続いたのはなぜだろう』	外国の勢力をおさえる	国内の勢力をおさえる	人々の生活が豊かになる
明治の国づくり	1860年と1880年の銀座の様子を表す絵資料の比較 →『短い間に町の様子が大きく変化したのはなぜだろう』	外国との関係が変わる	国の制度が変わる	人々の生活が変わる
世界に歩みだす日本	「岩倉使節団」と「陸奥・小村」の写真資料の比較 →『条約改正ができたのはなぜだろう』	強い国になる	国のしくみが整う	豊かな国になる

資料6のように、3枚の『つなげるシート』を縦に並べて比較することで、時代ごとの特徴と変化をつなげて観ることができる。

具体的には、外交的観点では、江戸時代から明治時代の外交面での変化について、鎖国政策から開国への移行、不平等条約の締結と改正に向けての努力、アジアの中での強国としての地位の確立を関連させてつなげて考えることができる。また、政治的観点では、その変化について、江戸幕府の幕藩体制による身分制度の確立から明治維新後の中央集権国家への移行、立憲体制の確立による近代国家への移行を関連させてつなげて考えることができる。産業・文化的観点では、町人文化の成立から発展への移行、生活の変化や産業の発展の様子などを関連させてつなげて考えることができる。

比較・関連付けた結果を総合・再構成し、考えを構築し表現する活動を積み重ねることで、児童は学び方を習得し、考えを記述することへの抵抗が少なくなる。さらに、前單元までの学習を必然的に復習することができ、知識の定着も期待できる。

また、小学校社会科の歴史学習では、学習内容が「政治」「外交」「産業・文化」の3観点を中心に構成されているため、先人の業績を学習する時、3観点に分類することで思考を整理することができ、その価値や意義をとらえやすくすることができる。そして児童は歴史に対する見方・考え方を習得し、思考力を高めることができる。

具体的には、江戸幕府の政権を安定させるための徳川家光の業績として、外交的観点としての鎖国政策、政治的観点としての身分の統制を整理してとらえることができる。また、明治維新後の政治体制の確立に向けての、大久保利通、板垣退助、大隈重信、伊藤博文らの業績を関連させ整理してとらえることができる。

以上のことから、継続的に「追究の観点」をふまえた学習活動を構想し実践しながら、単元の学習を総合・再構成する活動として『つなげるシート』の作成を取り入れることで、思考力・表現力を高めていきたいと考えている。

<参考文献>

- ・安野 功 著 『社会科授業力向上5つの戦略』 東洋館出版社(2006)
- ・岩田和彦 著 『社会科固有の授業理論30の提言』 明治図書(2001)
- ・小原友行 編著 『思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン』 明治図書(2009)
- ・片上宗二 柳下則久 編著 『小学校学習指導要領の解説と展開 社会編』 教育出版(2008)
- ・北 俊夫 片上宗二 編著 『小学校新学習指導要領の展開 社会科編』 明治図書(2008)
- ・北 俊夫 著 『社会科学力をつくる「知識の構造図」』 明治図書(2011)
- ・北 俊夫 著 『社会科 学習問題づくりのアイデア』 明治図書(2004)
- ・北尾倫彦 編 『平成23年度版観点別学習状況の評価規準と判定基準小学校社会科』 図書文化(2011)
- ・国立教育政策研究所 「特定の課題に関する調査(社会)結果のポイント」 教育課程研究センター(2008)
- ・国立教育政策研究所 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』 教育出版(2011)
- ・澤井陽介 中田正弘 著 『社会科 授業の作りかた』 東洋館(2014)
- ・全国社会科教育学会 編 『社会科教育実践ハンドブック』 明治図書(2011)
- ・東京学芸大学社会科教育学研究室 編 『小学校社会科教師の専門性育成』 教育出版(2006)
- ・細谷千博 著 『日本外交の軌跡』 日本放送出版協会(1993)
- ・無藤 隆 嶋野道弘 編 『確かな学力の育成』 ぎょうせい(2008)
- ・森分孝治 片上宗二 編著 『社会科重要用語300の基礎知識』 明治図書(2000)
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 社会編』 東洋館(2008)

<研究協力校>

高崎市立金古南小学校

<担当指導主事>

関 喜史 榎本 功

- ・北俊夫『平成20年度改訂小学校教育課程講座社会』（2009）ぎょうせい
- ・高野尚好 小林賢司 寺崎千秋 編『新社会科の授業こう教える』 国土社・岡崎誠司「仮説吟味型『人物群学習』による小学校歴史学習の科学化」

・香川県教育センター「思考力・判断力・表現力等を育成する指導と評価」

・川崎市総合教育センター 社会科研究会議「子どもの意欲が連続する社会科学習の在り方」

「学習向上推進フォーラム連続提案 社会」

文部科学省委託調査「学習指導と学習評価に対する意識調査」2009・8

全国社会科教育学会報告資料、2010. 10. 30

『社会科授業のリ・デザイン』 科授業改善研究会著

- ・小原友行「小学校としての歴史的な見方をどう育てるか」『社会 社会のしくみと歴史』 岩波書店

・木村博一 編『初等社会科教育学』 協同出版

・神戸大学附属住吉中学校 神戸大学附属中等教育学校『生徒と創る協同学習』 明治図書
東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課 台東区立石

- ・「社会的事象に対する自分なりの見方・考え方をもち、適切に表現することのできる児童の育成」
教科調査官が語るこれからの授業 小学校

言語活動を生かし「思考力・判断力・表現力」を育む授業とは 図書文化

子どもが追究の必要性を感じ、切実感をもって取り組むような「意識の体制」をつくること、問題意識を醸成すること

社会科研究 2012 11

- ・教師が教えなければならないことを子どもが学びたいことへと高める手立てをとること・6年縄文時代 コピー→色ぬり 春夏秋冬を決めて

・駒競行幸絵巻（平安）平治物語絵巻（武士が力を持ち、貴族が廃れた様子）→どうして貴族の力が衰え、武士が力を持つようになったのだろう。

度が整った」という政治的観点、「強い国になった」という外交的観点、「豊かな国になった」という産業・文化的観点が設定されます。これは、追究する段階でポートフォリオを作成する際の資料収集の観点となり、単元全体の学習に見通しを持つことができると考えます。

次に、追究する段階では、設定した観点に沿って資料を収集・選択・分析し、分野ごとに資料を比較・関連付けて学習を進めることにより、事象の特色や相互の関連をとらえることができると考えます。

そして、まとめの段階で、「凝縮ポートフォリオ」を作成します。交流しながら、単元の学習で扱った資料を観点別に再構成してつなげたり、観点間の関連性を見いだしたりして、単元の総合的なとらえを図や言葉で表現します。

さらに、単元ごとの凝縮ポートフォリオを積み重ねることで、前単元までの既習事項と関連付けて考えることもできます。

こうした活動を通して、点としてとらえていた事象が線でつながり、知識のネットワークを作り出すことができ、自分なりの事象の見方や考え方を深めることができると考えます。

研究の計画と方法は、三ページの下からです。工夫は、明治維新の単元と世界に歩みだした日本の単元を1つの単元として扱うことです。帝国主義の時代に、アジアで唯一欧米的な近代化に成功していく日本の姿が、産業・文化の発達に象徴される国力の充実、議会政治の開始や戦争の勝利に象徴される国際的地位の向上という視点からとらえられるようにすることにより、事象のつながりを意識し、当時の世の中についての見方や考え方を深めることができると考えます。

- ・ 奈須正裕『学ぶ意欲を高める 子どもが生きる学校づくり』 金子書房(1996)
 - ・ 学習課題が追究に値するか検討するのは、子どもの学習に責任をもつ教師の仕事である。
 - ・ 木村博一編『初等社会科教育学』 協同出版
- いつ、どんなことが、どのように起こったのか
それは、なぜおこり、その結果どうなったのか

教材 心情や思考をゆさぶり、素朴な疑問をひきだすもの

児童が当然だと思っていることや今までの見方や考え方と異なる事象、驚きやあこがれを引き出す事象

具体性、明確さ、人物・時代への憧れ、驚きといった児童が想像力を働かせやすい要素を踏まえる。歴史の大きな転換、現在と異なった特色が明確、人物の働きが魅力的

事象の意味や社会の様相は多様な解釈が可能であり、歴史の面白さとはこの多様な歴史像を児童自身が描き、真実を求めて追究していくところにある。

多様な見方や考え方を引き出す幅広い内容を含んだ歴史的事象や見方や考え方の妥当性を吟味する資料が入手可能な事象の選定

- ・ 北俊夫 著 『社会科 学習問題づくりのアイデア』

問題解決の営みが、すなわち人生である。いつも周囲の人に解決方法を聞きながら対処したり、いつも他人の言いなりになったりしているのでは、主体的に生きているとはいえない。精一杯の問題解決能力を自ら発揮することが求められる。

教師は意図的に「茶色くなったりんご」(意外性のある事象)を学習場面に提示することが必要。既有的知識や見方、考え方では解釈できない意外な事実や事象と出会うことによって、追究心が掻き立てられる。

子どもが追究の必要性を感じ、切実感をもって取り組むような「意識の体制」をつくること、問題意識を醸成することが教師の役割

問題意識をもつ場面①相矛盾する複数の資料を分析することを通して

- ④予想してから事実を提示し、そのずれを生かしながら
- ③身近な具体物などと比較しながら数量に対する驚きを生かして
- ④子どもの生活体験や体験的な活動を通して

時間的にずれのある2つの事実を提示して、両者の間の(ブラックボックスになった部分)に問題意識をもたせて、学習問題を設定していく。歴史で効果的

- ・ 北 俊夫 著『あなたの社会科授業は基礎・基本を育てているか』 明治図書

・ 大日本帝国憲法の発布、日清・日露戦争、条約改正などの関わって活躍した人物の働きを調べることを通して、「わが国の国際的地位の向上」について分かるようにする。指導計画を作成するに当たっては、子どもたちが「国際的地位の向上」キーワードを自分なりにどうとらえさせるかをおさえておくことが大切である。また、子どもたちが意欲的に歴史的事象を調べ、自らが獲得していくように、例えば、まずノルマントン号事件の様子や背景を具体的に調べるようにし、子どもたちの心情の訴えな

がら不平等条約がどのように改正されるに至ったのか、人々のどのような努力があったのかという学習問題を設定し、わが国の国力が充実していった様子を具体的に追求していくようにする。

6年生の社会科では、我が国の歴史に関する学習を行うが、歴史上の出来事や人物名、年号等を覚えるのがねらいではない。歴史的事象を具体的に調べることによって、どんな意味があったのか、そのことによってどんな変化が起きたのか等、それを多くの要因の関連の上に考察することが重要になってくる。つまり、具体的な事象を比較・関連付け・総合するといった考察を通して、その社会的な意味や特色を探り、共通性・規則性などを発見していくことを重視しているといえる。